

地勢

長瀞町は埼玉県の西北部、秩父盆地の東北の入口です。町の中央を荒川が縦貫し、国指定名勝天然記念物「長瀞」として渓谷美を見せています。

また、その独特の地形は、「日本地質学発祥の地」として、 あるいは秩父地域の近隣市町も含んだ「秩父ジオパーク」と しても、国内外から高い評価を得ています。

総面積は、30.43km。そのうち約60%が山林で占められ、四方を宝登山(標高497.1m)、不動山(標高549.2m)、陣見山(標高531.0m)、小林山(標高538.6m)、といった山々

に囲まれ、これらの山々から湧出する沢は荒川へと水を集めます。町全域が「埼玉県立長瀞玉淀自然公園」に指定されており、特に国道 140 号の「親鼻橋」から県道長瀞児玉線「高砂橋」に至る荒川の両岸は、「岩畳と岩石群」で知られる「長瀞」で「国指定: 名勝及び天然記念物」として保護されています。

荒川と平行して国道 140 号、秩父鉄道、県道長瀞・玉淀 自然公園線が走り、街並が点在しています。町の中心部は、 東経 139 度、北緯 36 度、海抜約 142mです。

沿革

長瀞町に人類の生活が始まったのは、縄文時代まで遡ることができます。鎌倉・南北朝時代に建てられた日本一の高さ(5.37m)を誇る国指定: 史跡野上下郷石塔婆からは、領民生活も豊かで信仰も盛んに行われ、善政が布かれていたことがうかがえます。 徳川時代の初期には現在の国道 140 号である秩父往還が整備され、明治 44 年、秩父鉄道当時は上武鉄道)が開通。 国道と鉄道が当地域の発展に貢献した役割は誠に大きいものがあります。

明治 22 年の町村制施行により、藤谷淵・本野上・中野上

の3村が合併して野上村に。野上下郷・矢那瀬の両村が合併 して樋口村に。岩田・井戸・風布・金尾・下田野の5村が合 併して白鳥村になりました。

大正 13 年 12 月 9 日、国の名勝及び天然記念物に指定された「長瀞」は、当時から多くの観光客に親しまれていました。

また、昭和 15 年野上村が町制を施行。昭和 18 年樋口村 と白鳥村の一部 (井戸・岩田・風布の一部) が野上町と合併し、 新しい野上町が誕生。その後、昭和 47 年 11 月 1 日、町名 変更を行い、「長瀞町」とし、現在に至っています。

町章



則草

町章は、町名のカタカナ表記の頭文字 「ナ」を図案化したものです。

制定年月日は、昭和47年11月1日です。



はつらつ 長藤

シンボルマーク

シンボルマークは、町名のカタカナ表記の頭文字「ナ」に、人も社会も自然も全てがはつらつとしているイメージを加えて図案化されたものです。

町の花・木・鳥



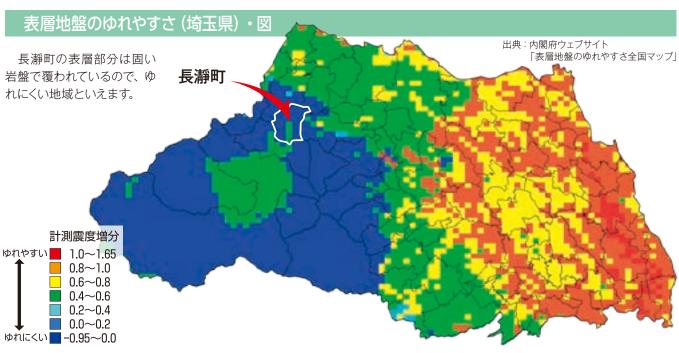




花は「さくら」、木は「もみじ」、 鳥は「せきれい」です。

制定年月日は、昭和57年11 月1日です。











長瀞町って、どんなとこ! こんなとこ!!

長瀞町の行政



福祉・保健・医療

町民の健やかな健康

町民の健康の保持増進につきましては、保健センターにおける特定健康診査、胃・大腸・乳・子宮・肺の各種ガン検診や予防接種、健康相談、体力づくりのための元気モリモリ体操など幅広い事業を実施しています。

また、子育て支援として、「ひよこ倶楽部」、「おひさま教室」等を開催するとともに、安心して遊べる場所として「育児サークル」へ保健センターを開放しています。また、愛育会による地域社会での声がけ、食生活改善推進員協議会による健康づくり活動の促進など、健康のための様々な活動を実施しています。







福祉活動の拠点を目指して

急速な高齢化が進み、高齢者福祉に対する社会的要請が高

まる中で、町では長瀞町地域福祉計画・地域福祉活動計画や

長瀞町高齢者福祉計画·介護保険事業計画や長瀞町子ども・ 子育て支援事業計画、長瀞町障害者計画・障がい福祉計画の

策定等を行い、高齢者や身体障害者、児童等の幅広い福祉対

策を進めています。高齢者一人ひとりの状態に応じて、地域の

様々な支援・サービスを活用しながら、住み慣れた家庭・地域

で安心して暮らせる環境づくりの充実に取り組む「地域包括

ケア | の考え方を重視した高齢者施策を推進します。



教育・文化

豊かに育てる

長瀞町には小学校2校、中学校1校があり、美しい自然を守り育て、個性を活かし、意欲的に豊かな心を育む教育を進めています。

また、国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、異文化への理解・尊重・共生に向けた国際理解教育を進めています。 英語教育は、小・中学校はもとより、各幼稚園、保育所でも週1 回程度の授業を実施。情報化社会に対応できる学習環境の整備を進めています。





魅せる長瀞、愛でる長瀞

自然の美しさを持つ長瀞町。国指定の名勝及び天然記念物「長瀞」をはじめ、野上下郷石塔婆や旧新井家住宅など、多くの貴重な文化財が点在。博物館も自然の中で、個性豊かな魅力ある空間を創りだしています。

神楽や廻り念仏といった古い芸能や行事も大切な文化遺産 であり、昔の人々の生活を知る上での貴重な資料でもありま す。これらの文化財の保存と積極的な活用を進めています。





産業・経済

地域特性を活かした観光農業の発展と農産物活用 の新たな取組

古くは養蚕、しいたけ栽培などが中心となって長瀞の農林業は発展してきました。現在は、観光地という特色を活かした体験型の観光農業が中心となっており、季節になるとブドウやイチゴ、ブルーベリーの観光農園が開園されています。

また、甘柿の直売や地元産の蕎麦やコンニャク、シメジやヒラタケの生産加工といった地域の特性を活かした農産物の販売が行われており、最近では自家製野菜を使用した料理を農家レストランで提供したり、ふるさと納税の返礼品とするなど、長瀞の農産物を活用する新たな取組も始まっています。

このほかに、地域特産品開発事業補助金を活用した特産品の開発支援や新規就農者への補助金の拡充を行い長瀞の農業発展に努めています。

一方、農道、林道、排水路など農林道の生産基盤の整備に 努めるとともに、長瀞の自然環境と調和した美しい農山村づ くりを進めています。

地域経済を支える商工業の振興

中小企業者への借入資金に対する利子補給制度や商工会への補助、商工業の活性化対策など、地域経済を支えている

商工業の一層の振興と経営の近代化を図っています。

また、岩田農村工業導入等地区を中心に優良企業の誘致に 努めています。









防災・安全

町民の安全な暮らしを守る消防

予測のできない自然災害及び人為的災害から町民の生命と 財産を守るため、地域防災体制の整備、そして防災・防火意識 の向上に力を入れています。

消防・救急体制は、常備消防(広域市町村圏組合)と非常備消防(消防団)が相互に連携し、非常時に備えて万全を期しています。また、水害及び土砂災害から町民生活を守るため、治山・治水対策を進めています。

交通安全運動の推進

地域住民を交通事故から守り、安全で住み良い交通社会の 実現を目指すため、交通安全意識・マナーの向上に努めてい ます。1年を通じて、交通指導隊や交通安全母の会等により、 街頭キャンペーン・各種イベント等の活動行事への参加など、 地域ぐるみの啓発活動を実施しています。

豊かさをつくる道路整備

町民の生活・利便性の向上や交通安全を図るとともに、産業活動を活発化させるため、計画的に町道の改良や側溝整備などを進めています。

また、南桜通りなど観光地長瀞のイメージアップとなるよう な道路の整備と維持管理を進めています。



さらに国道140号線の自歩道整備や改良の促進を要望してゆきます。

公営住宅の管理

町民の住宅供給を図るため、町営住宅の維持管理と、快適な住宅環境の整備を維持しています。

現在、公営住宅として町営84戸、県営63戸の住宅を町民に提供しています。